

# 曾屋高新聞

発行 2017年7月10日  
秦野曾屋高校 新聞委員会  
秦野市曾屋3613-1  
Tel. 0463(82)4000

※写真は写真部提供です。



## 桃団優勝

どうも、桃団団長の溝口颯です。おつかれさまでした。ハイハイと言いたい所ですが今回は真面目に自分の気持ちを書こうと思います。団をまとめていて最初に思ったのは、よくついてきてくれる一、二年生だなということでした。自分が団をまとめるために絶対にしないと決めていたことがあります。それは団員に対して怒らないことです。ですが桃団の団員達は本当に怒る必要が無いくらいよくついて来てくれたと思います。アトラクの練習は本当に大変でした。一、二年の時は覚えるだけで一杯だったのに団長になって教える立場になったからです。自分は踊るのが苦手なので、二年生に教えられるよう家でも練習をしていました。その家であってかアトラクでは二位を取ることができて本当に嬉しかったです。

体育祭本番は本当に暑い一日になりました。どこの団も最高に輝いていてこの時間が永遠に続けば良いなと思いました。こんな楽しい体育祭は初めてだったしこんなに走ったのもこんな泣いたのも桃団のみながいたからです。上手くいかないことや、大変だったこともたくさんあったけどそれ以上に楽しかったことや嬉しかったことの方が多かったです。自分は団長として足りないことだらけだったけど皆と一緒に頑張ることができました。こんな言葉じゃ自分の気持ちには1%も表せないけど団長をやれる本当に良かったと思っ



## おめでとう

結果	総合の部	アトラクの部	デコの部	Tシャツの部	競技の部
1位	桃団	青団	赤団	桃団/橙団	桃団
2位	緑団	桃団	緑団		緑団
3位	青団	黄団	紫団	赤団	青団

赤団の団長をやらせてもらった根元です、自分は赤団の皆さんをまとめるか？指示を聞いてくれるか？など不安がたくさんありましたが、皆さんと予定を立てて赤団の皆に伝えたり一人ひとりのコミュニケーションをすることで状況を確認していました。赤団全員が練習に来てくれました。みんなが楽しそうにやっていたから、副団長の二人とアトラクリーダーとそれ以外に放課後に残ってくれた人たちの協力があってか

青団の団長をやらせてもらって、副団長をはじめ、アトラク、ボード、衣装、そして一、二年生のみんなが協力してくれておかげで、全てのことを順調に進めることができました。そして三年生になり、青団の団長をやらせていただきました。団長は団のみんなをまとめる責任があるの分かってはいましたが、実際にやってみると、予

紫団の団長をやらせてもらって、副団長をはじめ、アトラク、ボード、衣装、そして一、二年生のみんなが協力してくれておかげで、全てのことを順調に進めることができました。そして三年生になり、紫団の団長をやらせていただきました。団長は団のみんなをまとめる責任があるの分かってはいましたが、実際にやってみると、予

橙団の団長をやらせてもらって、副団長をはじめ、アトラク、ボード、衣装、そして一、二年生のみんなが協力してくれておかげで、全てのことを順調に進めることができました。そして三年生になり、橙団の団長をやらせていただきました。団長は団のみんなをまとめる責任があるの分かってはいましたが、実際にやってみると、予

緑団の団長をやらせてもらって、副団長をはじめ、アトラク、ボード、衣装、そして一、二年生のみんなが協力してくれておかげで、全てのことを順調に進めることができました。そして三年生になり、緑団の団長をやらせていただきました。団長は団のみんなをまとめる責任があるの分かってはいましたが、実際にやってみると、予

黄団の団長をやらせてもらって、副団長をはじめ、アトラク、ボード、衣装、そして一、二年生のみんなが協力してくれておかげで、全てのことを順調に進めることができました。そして三年生になり、黄団の団長をやらせていただきました。団長は団のみんなをまとめる責任があるの分かってはいましたが、実際にやってみると、予

# 三年遠足

私たちが三年生は、冒険とイマジネーションの海、東京ディズニーシーへ行きまし。当日の朝は、一部の班のメンバーが遅れたりなどバリエーションもありましたが、無事に参加者全員が人園することができました。パークゲートを通り抜けるとそこはすでに南ヨーロッパの町の中。エンターテインメントの惑星地球を象徴するオブジェ「アクアスフィア」がゲストを優しく迎えます。ホテルアークードをくぐると目の前には、東京ディズニーシーの象徴である「プロメテウス火山」がそびえたち、その景色はまるで一枚の絵画のようでした。入園すると皆、ファストパスを取りに走ったり、ショーの場所取りをしたりなど自分たちで描いたように楽しんでいました。そこには、悲しみや涙は無く、笑顔でしゃべっている明るい皆の顔がありました。皆の楽しみ方はそれぞれで、メディアテレニアンパーで大航海時代の探検家になったり、アメリカンウォーターフロンで二十世紀初頭のニューヨークを旅したり、ポトデイスカバリーで時空を超えた未来を体験した

り、ロストリバーデルタで古代遺跡の神祕を調査したり、アラビアンコーストで「ジニー」のユニモア部の魔法で笑った。マーマイドラグーンでアリエルの住むアンダー・ザ・シーを冒険したり、ミステリアスアイランドで謎とスリルに満ちた海底と海底へ潜入したり、ミッキー達の素晴らしいショーを見たり、美味しいグルメをお腹いっぱい食べたり等それぞれ、この時間を思いっきり楽しんでいました。また、パーク内で大きくくると目の前には、東京ディズニーシーの象徴である「プロメテウス火山」がそびえたち、その景色はまるで一枚の絵画のようでした。入園すると皆、ファストパスを取りに走ったり、ショーの場所取りをしたりなど自分たちで描いたように楽しんでいました。そこには、悲しみや涙は無く、笑顔でしゃべっている明るい皆の顔がありました。皆の楽しみ方はそれぞれで、メディアテレニアンパーで大航海時代の探検家になったり、アメリカンウォーターフロンで二十世紀初頭のニューヨークを旅したり、ポトデイスカバリーで時空を超えた未来を体験した

この一日で体験したこと、楽しかった思い出を胸に刻み込み、明るく楽しい笑顔で過ごせる学校生活に繋がっていききたいと思えます。



※写真は、写真部が撮影しました。

## 一年遠足

私たちが四月二十六日、南足柄運動公園に行ってきました。曾屋高校から目的地まで一クラス一台のバスに乗り、お菓子を交換したりなどお楽しみもありました。目的地の南足柄運動公園には、スタジアムやプールがあり、様々な施設が揃っています。お天気に恵まれ、とても楽しい一日となりました。また、盛り上がりがあったのは大縄跳びです。なかなか跳べない時、みんなが応援をするなど、跳ぶのが苦手な人でも、とても楽しく行うことができました。今回の遠足で私たちが、協調性やみんなと一緒に努力をし、目標を達成することの喜びなどたくさん学ぶことができました。



## 二年遠足

二年生は秋の修学旅行に向けた事前準備として、まず羽田空港に集合するところから遠足が始まりました。その後、班ごとにそれぞれ別れ、横浜に向かいました。まるで包み込まれるかのような地からのエネルギーを受けながら、様々な場所を訪れ、観光しました。日本の市町村では総人口が最も多い横浜は、魅力あふれる街で、各班ごといろいろな楽しみ方をしていました。お買い物や、ランドマークタワーなどの観光地やみなとみらいはもちろん、三ツや鉄道、新聞の博物館、パワラの絵などの美術館と訪れた班もいたそうです。中でも一番人気だったのは中華街です。小籠包や肉まんなど有名なものや、甘栗を食べたりして、たてもともおいしかった。たくさんのお土産ができて、皆さんの観光ができて、修学旅行にしっかりと対策をとることができました。今回の遠足で横浜は外国人観光客も多く、活気があふれていたことを知れました。そして、遠足でいい思い出ができたと思います。この経験を今後に生かしていきたいです。



## 山岳部

Q 全体を通しての感想を教えてください。  
A 関東大会予選を通してメンバー四人ともよく頑張ったと思います。今年で関東大会六年連続出場できました。  
Q 楽しかった点、苦労した点がありますか？  
A 特に無いですが、強いて言うなら大会と、体育祭の二日後に大会と、休みのスクジュール管理です。  
Q 後輩にメッセージをお願いします。  
A 二年生協力して後輩を引っ張ってあげてください。今年には合宿に行けるとい



## 卓球部

関東大会県予選卓球大会シングルスで、三年生の皆木椋子さんが、一回戦中郡の中学チャレンジャーの横濱商に接戦の末三対二で勝利、二回戦高津に三対一で勝利、三回戦全国レベルの横浜隼人に負けたもののベスト三十二でした。今年さらには練習に磨きをかけ、県大会での入賞を目指します。

## テニス部

今年テニス部は、グランド大会県予選で、三年生の皆木椋子さんと小林魁哉さんが、見事ベスト十六位になったというのでお二人にインタビューをさせてみました。頑張り、休みも忘れず頑張りました。



## バドミントン

春の関東大会予選(団体)高校総体団体、ダブルス(和栗あおい・小沢菜穂)ともに県のベスト三十二という結果でした。県大会の組み合わせが厳しいこともありましたが、自分たちの目標としていた順位には達しませんでした。五月に新チーム(二年五人、一年五人、マネージャー三人)になりました。「不撓不屈」の精神(強い意志をもって苦労や困難にもくじげない)をもって、日々の基本練習や箱根でのつらい夏合宿を乗り越えて、新人戦では団体で県のベスト八以上を目指し、部員全員で頑張りたいと思います。



### お手栞

二年生

迷子になった二歳の女の子を保護した二人の品田晟さんと、二人のおかけで、村瀬智哉さんが、六月九日、秦野警察署から感謝状を贈られました。無事に保護者のもとへ帰宅途中の二人は、五月一日、学校付近の道路で、大泣きをしている女の子を見つけた。交通量の多い道路で泣いている女の子を見つけた二人は、このまま放っておくのは危険だと考え、近くの人の車に乗り、秦野駅前交番に女の子を連れて行きました。警察署によると、この女の子は二歳。家族の知らない間に家一人で出て、迷子になってしまったようです。警察署で行われた贈呈式では、緊張した様子で感謝状を受け取った二人。署長からは、「二人のおかげで、女の子が事故や事件に巻き込まれることなく、無事に保護者のもとへ帰ることができた」との言葉をかけられた。女の子に声をかけた、交番に連れて行ってよかった」と二人も嬉しそうに話していました。

